

【概要】

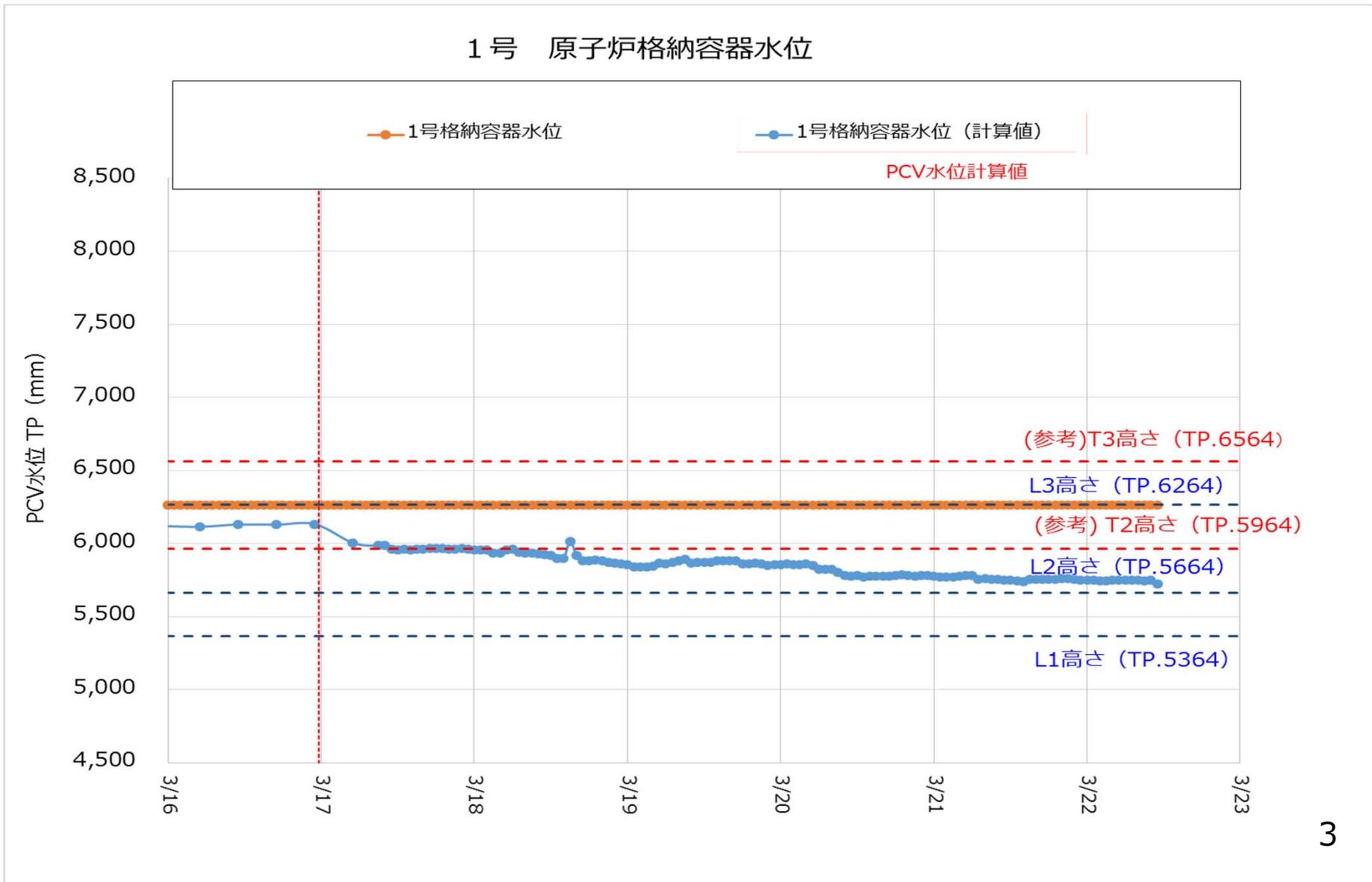
- 3月16日に福島県沖で発生した地震以降、1号機及び3号機原子炉格納容器の水位について監視強化を継続しており、その他、原子炉格納容器の温度や圧力等の推移についても注視しております。
- 1号機原子炉格納容器の水位については、3月16日に計算上の水位（傾向監視用）で低下が確認されたものの、その後、大きな変化は確認されておらず、引き続き、監視を継続しています。
- その後、監視を継続していく中で、格納容器水位が緩やかではあるものの低下傾向にある可能性が考えられることから、本日（3月22日）、原子炉格納容器内部調査に使用している水中ROVを用いて、水位の測定を実施しました。
- 地震発生直後、一時的に約20cm低下（3月17日お知らせ済み）、その後、本日までに水位が約20cm低下していることを確認しました。
- 燃料デブリの冷却は問題なく継続されており、外部環境への影響はないと判断しております。
- 今後、水中ROVの調査に必要な水位を確保したうえで、調査を再開したいと考えております。

現在、注水量等について検討しており、決まり次第、皆さまにお伝えさせていただきます。

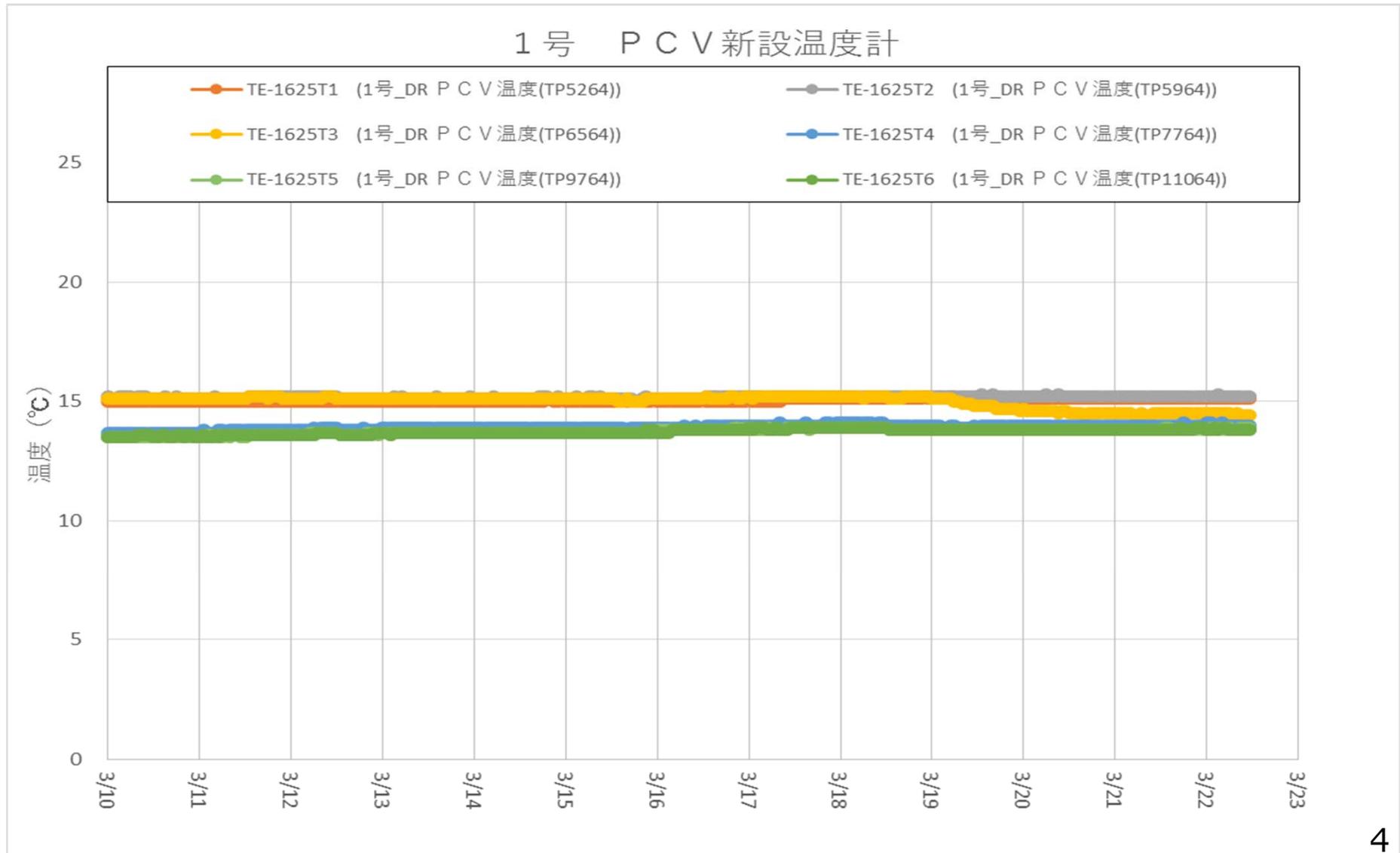
-
- 原子炉格納容器水位低下の要因として、地震による原子炉格納容器損傷部の状況変化も考えられることから、引き続き、パラメータを注視いたしてまいります。

1号機原子炉格納容器水位

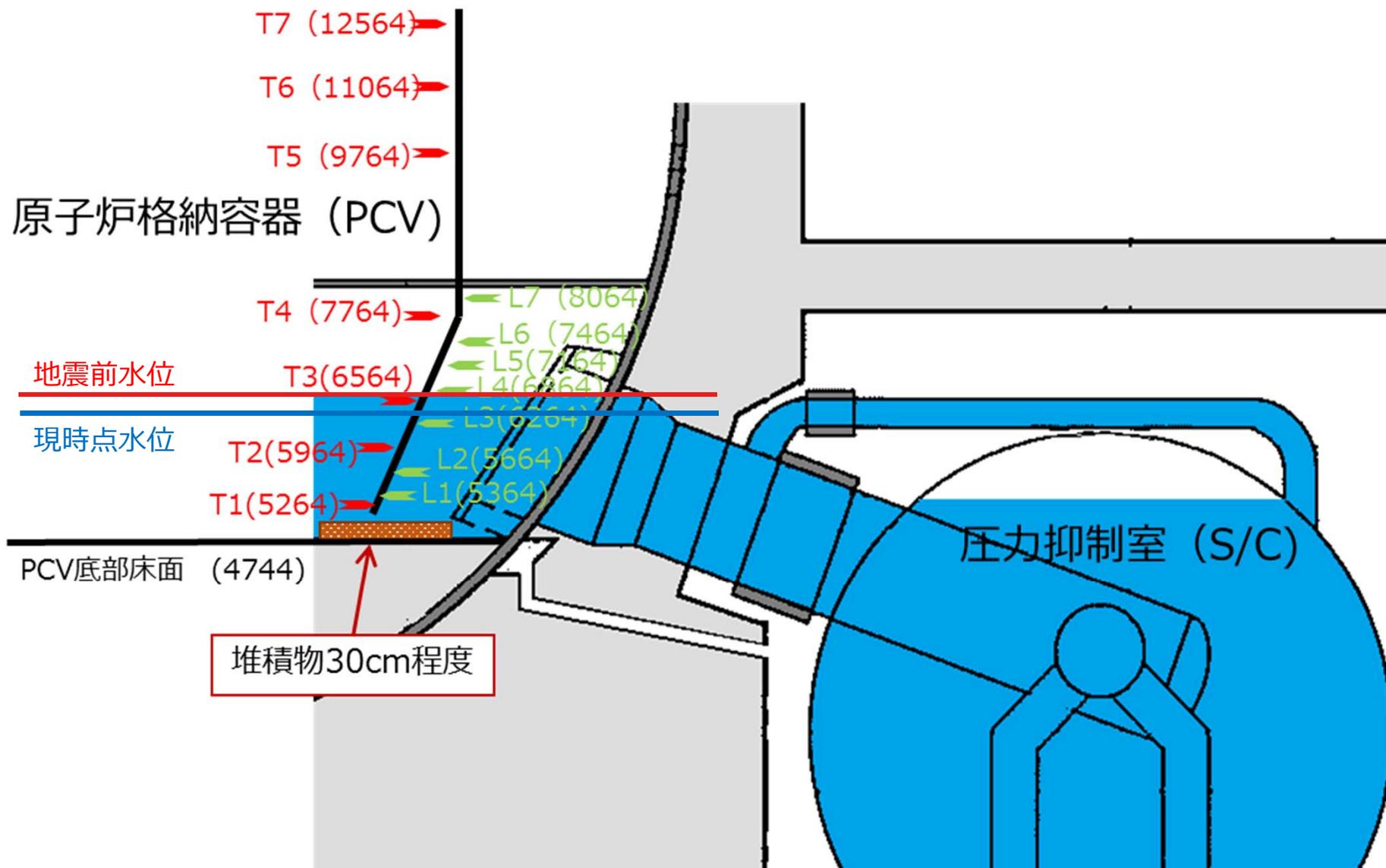
監視を継続していく中で、格納容器水位が緩やかではあるものの低下傾向にある可能性が考えられる



【参考】 1号機原子炉格納容器温度

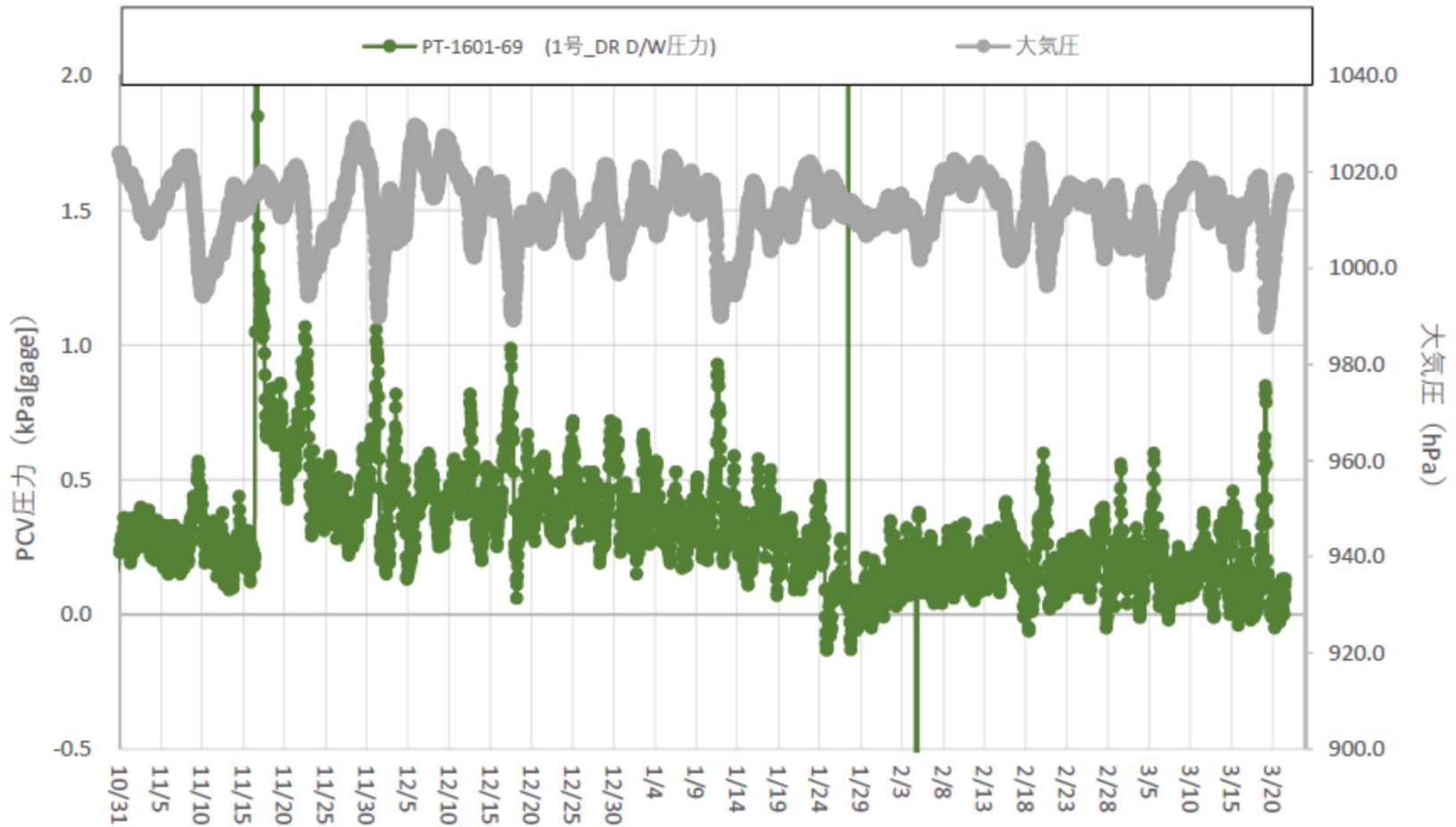


1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ



【参考】 1号機原子炉格納压力

1号 原子炉格納容器压力
【監視補助計器】



【参考】 3号機原子炉格納容器水位

